



医学シリーズ (276)

喘息をよくし 治すために

喘息大学学長

清水 巍

276 インフルエンザ、ACOS (エイコス)

2月の話題は何と言っても感冒（カゼ）、インフルエンザでありましょう。予防に勝る治療なしで、わかば会員の皆様は予防接種はお済みになったに違いありません。「予防接種を受けたから、もう大丈夫、カゼも引かん」とおっしゃる人もいます。しかし、注意すべきことは2つあります。

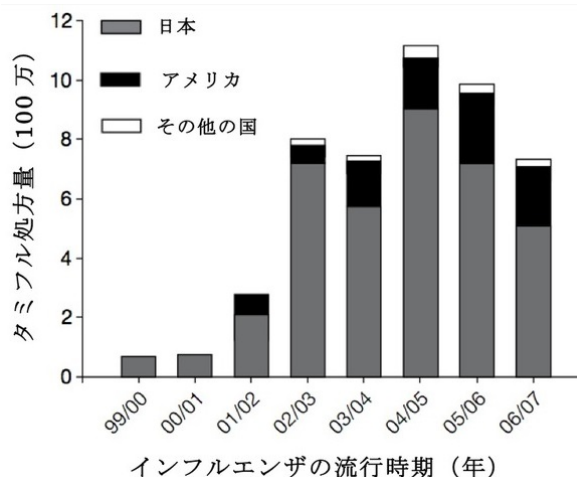
1つは、カゼの予防注射ではないので、感冒ウィルスによるカゼは引くかもしれません。2つ目は、インフルエンザA型、B型、C型であろうとも変種が起こり得ますし、絶対にかからない予防注射とは言えないし、かかっても軽くさせる効果だけという人もいます。ですから、以下の①②③の追加注意が必要です。

①カゼやインフルエンザの人には『君子危うきに近寄らず』で、濃厚接触を避ける、②マスクをしっかりと着用する（鼻を出して口だけ防いでいる人がいるが、それでは50%の予防であり不十分）、③手洗い・消毒・ウガイなどを励行する。

毎年のことではありますが、年余にわたる「わかば会員」の皆様は、「カゼ引きの名人」から「カゼ、インフルにならず、治し方の名人」になって頂きたく、この欄の後に「医学的新情報」ではなく、「医学的基本情報」として、城北診療所でお渡ししている情報を紹介させて頂きました。

治療については、その情報のタミフル、リレンザ、イナビル、ラピアクタの4種あります。世界と較べ、使い過ぎという記事もありますが、東北大の渡辺先生は「早くから日本は薬で治療するので、死亡率が一番低い」と高く評価しておられます。エボラ出血熱と同じで、予防と早目の治療が大事でもあります。喘息、COPD、じん肺などの人は、普通の元気な人と同じと考えてはいけないと私は思います。

インターネットより記事抜粋



■日本は全世界の約75%のタミフルを消費

日本では、使用しなくても元気になる可能性の高い人にもインフルエンザ薬を処方。世界消費量2位米国の約20%を大きく離しトップ1位。他国に比べ圧倒的に多く処方されている。他国は多く使うとお金もかかるし、インフルエンザに耐性、効かなくなると必要最低限の使用。重症になってから使用する傾向があるので死亡が多い。

■インフルエンザ薬治療が必要な人

本来、早期治療対象となるのは、**気管支喘息**、糖尿病、慢性心疾患など持病がある人、高齢や5才未満児などリスクの高い年齢の人とされる。